



FACE DUO

認知症理解を地域の方へ

特別養護老人ホーム

須磨シニアコミュニティが

FACEDUOで実現した「体験から始まる学び」



はじめに

認知症ケアの研修は、座学や動画視聴が中心になりがちです。一方で、「知識はあっても当事者の感じ方までは理解しづらい」という課題もあります。

兵庫県神戸市の須磨シニアコミュニティでは、認知症の当事者視点を体験できるVR教材「FACEDUO」を1か月間導入。職員研修に加え、地域関係者にも体験の機会を広げました。今回は、その取り組みについてお話を伺いました。

「知識」だけでなく「体験」を届けたい

須磨シニアコミュニティは、ユニット型特別養護老人ホームとして、入居後もできる限り在宅生活の延長として暮らせるケアを大切にしています。これまでも座学や動画研修などを実施してきましたが、「その場で終わってしまう」という課題を感じていました。「認知症の知識はあっても、現場ではその方がどう感じているかを理解することが大切です。」そこで着目したのが、認知症の当事者視点を疑似体験できるFACEDUOでした。



約半年かけて導入を検討

FACEDUOはインターネット検索をきっかけに知りました。認知症ケア研修の質を向上させたい、職員が興味を持って参加できる研修を実施したい、そして講義や動画視聴だけでなく自ら体験できる学びの機会をつくりたいという思いから、複数のVR教材を比較しながら検討を進めました。施設長や職員にも実際に体験してもらおう中で、「認知症の当事者視点を学ぶ手段として有効ではないか」と評価されました。

また、FACEDUOは短期間から導入できる価格設定で、施設の予算内で活用しやすかったことも後押しとなりました。他社サービスも検討しましたが、体験会の実施や導入支援を含めると予算面でハードルが高くなるケースもありました。その点、FACEDUOは導入前の体験会やサポート体制も充実しており、施設として安心して導入を進めることができました。こうして施設内での理解を深めながら検討を重ね、導入に至りました。

65名が参加 ここ数年で最も集まった研修に

研修は2日間で計4回開催し、参加者は約65名に上りました。

「ここ数年で一番参加者が集まった研修でした。」

VRという新しい研修スタイルへの関心も高く、研修後のグループワークでは体験をもとに活発な意見交換が行われました。



民生委員研修にも活用

FACEDUOは、地域包括支援センターと連携した民生委員向け研修にも活用されました。
参加者からは、

- 当事者の気持ちを考えるきっかけになった
- 地域での見守りに活かしたい
- 認知症への理解が深まった
- 寄り添う対応の大切さを再認識した

といった声が寄せられました。職員だけでなく、地域で高齢者を支える方々が共通の体験を持つ貴重な機会となりました。



FACEDUOの価値は「疑似体験」

FACEDUOの価値について伺うと、「**やっぱり疑似体験ですね。**」

という言葉が返ってきました。

認知症の知識を学ぶ機会は多くありますが、「当事者の感じ方」を体験できる機会は限られています。だからこそ、まず体験することに大きな意味があると感じられたそうです。



FACEDUOの導入を検討されている方々へ

「導入してすべてが変わるわけではありませんが、職員が興味を持って参加してくれたことは大きな成果でした。認知症を体験から学ぶ研修として、一度取り入れてみる価値はあると思います。」

編集後記

今回の取り組みから見てきたのは、「知識」と「体験」の両方が認知症理解には重要だということです。FACEDUOは職員教育だけでなく、地域関係者と共通の学びを生み出すツールとしても可能性を感じさせる事例となりました。



短期利用プラン

認知症・フレイル関連イベント・
導入に向けたトライアル等に活用

- FACEDUOの全てのコンテンツが1か月利用*できるプランです。
- 豊富なコンテンツを1か月間制限なしでご利用頂けます。

99,000円/月 (消費税込み、送料込み)

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年9月作成
FD2608006